

スタッフのためのフリー ペーパーマガジン

まめ

Vol.6 2017.09

9月に入り少しずつ秋の気配を感じる様になりました。何をやるにしても体は資本なので季節の変わり目には注意しながら、元気に過ごして行きたいものです。今年の夏、みなさんはどんな過ごし方をされましたか？夏といえば海、プール、花火大会、すいか割り、ビアガーデン、カブトムシ採り・・・色々ありますね。私は夏らしいことを何ひとつしていません。通常通りの平常営業でございます。

焼き焦げるような灼熱の太陽と真っ赤に燃え上がる夕暮れの空。そんな夏の日に私は一冊の本を読みました。太平洋戦争でゼロ戦に特別攻撃隊として搭乗した人の話でした。8月になると、ふと思い出すのは、過ぎし日々の出来事。8月の15日は先の太平洋戦争が終結した日、でもあります。そして体験したわけでもない私は、人間の命の重さや尊さを考えたり、その壮絶な生き方を想像して心がとても動揺してしまいました。

みなさんもよく知っているでしょうか、森山直太郎の「さくら」という曲は卒業ソングとして有名ですが、実は神風特攻隊のことを歌った「反戦歌」でもあると言われていいます。戦争末期、特攻隊として出撃する多くの若者たちは、戦地沖縄へ向かうその前に、自分の故郷の上空を飛んでいくことを許されたようでした。

過去は決して消すことはできないけれど、この先、手付かずの未来がまだ残っているのなら・・・

今を生きるものが何を信じ、何に情熱を注ぎ、何を捨てるのか、によって変わってくるのだろうか・・・

果たして、私たちの未来はどんな姿で待っていてくれるのでしょうか・・・

そんなことを考えながら今年の夏が過ぎて行きました。スタッフのみなさんにも穏やかに笑顔の絶えない明日が訪れますように。

文：編集Y

ふりかえればイシュー

今回のふりかえればイシューは「権利擁護」のお話。

私たちの社会では当たり前前の生活を送るための権利が法に明記されています。しかし障害を持つ人の取り巻く状況を見ると、法に明文化されている権利が侵害されている現実を知ることができます。権利が保障されていないこの状況をどのように擁護することが良いのでしょうか。

私自身障害を持つ人から様々なエピソードを聞いてきました。それは普通学校に通うためには学校にいる時は常に親の同伴が必要と言われたことや、生活をするために介助を必要としても介助時間が十分に支給されなかったことの話でした。歴史を見ても昔は障害を持つ人が地域で生活しようとしても社会にバリアが多く、施設や親元で生活することがほとんどだったようです。地域生活を目指した人々は介助制度が無いボランティア介助者を集め、介助者がいなければ一人でどうにかして生活を送っていました。それが今では少しずつ法制度が整って福祉サービスを受けられるようになり、支給された車いすに乗り、有償の介助者を連れた姿が増えてきました。

なぜ制度が整って生活が保障されてきたのか。思うにそれは自然に出来上がったのではなく障害を持つ当事者の声を挙げたことが大きな要因です。厚労省の役人に「(介助時間数を減らして)殺す気か」と詰め寄り、場面変わればバスに乗るためにバスをジャックするなど、強烈なメッセージを発信して社会を動かしました。そんな運動の歴史があり、今では生活保障がされてきて様々なサービスが作られています。多少の交渉をすることで制度を受けながら地域生活が作れる時代になりました。見渡せば社会には生活を送る上の資源(福祉サービス・学校・病院など)があり、その仕事に携わる知識を持ったスペシャリストがいます。しかしながら未だに施設での生活を余儀なくされる人、普通学校に通うことが難しいとされる人がいます。資源がありながら生きる選択肢が選べていない。本人の声を聞き取れていない状態です。

すなわち本人の声を社会資源に結び付けるコンサルティングが必要です。障害を持つ人のサポートはひとつの社会資源に限るものではなく、複数の社会資源が知識を共有し連携を取りながら取り組むべきものなのではないでしょうか。アークスペクトラムでは障害を持つ人本人・親を取り巻く様々な社会資源を繋げるプロジェクトを進めています。生きて行く上で様々な選択肢が自分の意思で選べる社会資源が周りがあると、安心して生活をする事ができる。すると社会資源の充実と共に障害を持つ人の声が社会に受け止められ、バリアが少しずつ解消されていく。最初にお話しした法にある権利が本当に保障される社会になっているでしょう。

文：編集O

サイドバイサイド

はたらくひとのよこがお。

今回のインタビューはみなさんお待ちかねです
ね！ Yさんです☆

編集Y: よろしくお願ひします。えがくで働き始めてどれくらい経ちましたか？

山下: 1年2ヶ月ぐらい経ったと思います

編集Y: そうですか、早いものですね。

やましたさんは働く上で大切にしていることはありますか？

山下: その人のペースに合わせること、寄り添うことですかね。

編集Y: なるほど。どちらもとても大事なことですよね。

山下: はい！えがくさんでは自立生活支援を主体とされているので、支援中は特に相手のペースに合わせる事を大切にしていますね。

編集Y: やましたさんは自分のことをどんな性格だと思いますか？

山下: そうですね・・・真面目・・・表裏ない性格だと思います。

編集Y: 今何をしている時が一番楽しいですか？

山下: 運動してる時(ダンス)、散歩中の柴犬を見ている時、韓国ドラマを見ている時です^^

編集Y: そうなんです！ダンスっていうのはどんなのですか？

山下: 私はジムに通ってるんですが、メガダンスという、ラテン、ジャズ、ヒップホップ、レゲトンなどなど・・・様々なジャンルのダンスを踊れるスタジオレッスンに入って踊ってます。ジムにはありませんがk-popも大好きです！

編集Y: 結構本格的な感じですね・・・今、一番やましたさんが関心をもっていることは？

山下: 断捨離です！笑 シンプルな生活スタイルに変えていきたいと思っています。

物を捨てて、物への執着を捨てたい。

本当に大切なものだけに囲まれて生きていきたい。笑ただの私の願望です！



Y・H さん
登録介助者 女性

まいのーと

私たちからのお知らせ

□月にいちどのごえんの日。それはそれは一人ひとりがよりあるがままの自分をあらわせるとっておきの時間。いつもの場所が少し姿を変え、みなさんと食事とお話を楽しむ憩いの場に。

ご縁の会

する日: 10月27日(金よう)

じかん: 18時~20時すぎ

ところ: アークスペクトラム事務所

おかね: 1,000 縁~



□介助スタッフ大募集

NPO 法人えがくでは夜勤には入れる介助スタッフを急募しています。

アルバイトの方であれば兼業可。学生さんの場合、学業との両立を相談しながらシフト調整します。

○働く時間

日勤は9時から19時。夜勤は19時から翌朝9時まで。※その他の勤務形態有開始時間終了時間の調整はその都度相談して決めています。

働きたい！という方がいらっしゃいましたら下記の連絡先まで

075-874-7356 (人事担当)